

岐阜方言語彙の消長

——美濃地方を中心に——

目 加 田 明 奈

1. はじめに

私は、埼玉県出身で小・中学校時代の一時期に名古屋にも住んだことはあるが、それ以降、現在まで埼玉に住んでいる。しかし、両親が岐阜県出身であり、岐阜県のことばの影響を受けていることから、友人との日常会話で相手に意味が通じない場合がたまに有り、自分が岐阜県の方言を話しているのだと知って驚いたことが度々ある。それが方言に興味を持ち、方言研究をしようと思ったきっかけである。

今回は、両親の出身地である岐阜県美濃地方を中心に調査し、以下のことについて明らかにしたい。

A：方言語彙使用率の移り変わり

一つの語彙にしても、年齢層で使用率はどのくらい違ってきているのか。方言語彙の使用率を多様な角度から分析し語彙使用などの移り変わりなどを明らかにする。

B：消滅する方言語彙と残る方言語彙の違い

Aで世代差などについて詳しく分析し、どのような語彙が消滅しやすく、残りやすいのかという傾向を探る。

C：岐阜方言に対する意識調査

岐阜県に対して、また岐阜方言に対してどのようなイメージを持っているのか調べる。

D：岐阜方言（美濃地方）

A～Cについて考察し、岐阜方言（方言語彙を中心）がこれからどうなっていくかを考える。

2. 研究概要

岐阜県内の地域差については、県境を接する富山・石川・福井・滋賀・愛知・三重・長野各県とのあいだにあるような大きなことばのちがいは見られない。平山輝男（1997）『岐阜県のことば』によると、飛騨と美濃のちがいは存在するが、移行的斬新的であってそれほどくっきりと際立ったものではない。西濃と美濃のあいだにおいても同様である。そのような県内のことばを大まかに分けるとすると

- (1) 北・中部圏 飛騨、北濃、中濃北部、東濃北部
- (2) 美濃西縁圏 揖斐郡北部、不破郡西部、養老郡西部
- (3) 西美濃圏 西濃（揖斐郡北部、不破郡西部、養老郡西部を除く）、中濃（北部を除く）
- (4) 東美濃圏 東濃（北部と南部を除く）
- (5) 美濃東南圏 東濃南部

このように、岐阜方言を5つに区分することができる。

2-1. 調査目的・方法

・調査目的

今回は主に方言語彙について、使用率の移り変わり（世代差）、消滅する方言語彙と残る方言語彙の違い、また方言についての意識調査を、アンケート調査を中心に行った。岐阜県各務ヶ原市在住の山田敏弘氏が監修・解説をされている「岐阜県方言カルタ」を入手し、そこから抽出した語や自分自身が気になっている語、47語について語彙の使用状況を調査するとともに、方言に対するイメージ調査を行った。

・調査方法

データ収集のためのアンケート派に岐阜県美濃地方へ赴き、アンケートを直接記入して頂いた。

・実施地区

岐阜県西濃地域

・実施年月日

平成24年8月～9月

2-2. アンケート集計

- ① 実施人数 77名
- ② 性別 男42人 女35人
- ③ 出身地 県内出身 60人（西濃地区内 52人 西濃地区外 8人）
県外出身 13人（愛知7人 山口2人 長野、三重、大分、東京）
無回答 4人
- ④ 年齢 20代9名、30代12名、40代13名、50代17名、60代16名、70代7名、不明3名
- ⑤ 語彙の使用状況

「使用する」を2、「使用しない」を1、「意味を知らない（知らなかった）」を0として使用率を集計した。以下に全体の平均使用率を表にして表す。

えらい (疲れる)	1.92	おたんちん (間抜け)	1.68	とらまえる (捕まえる)	1.28
だだくさ (だだくさ)	1.89	なまかわ (怠ける)	1.64	のうならかす (なくす)	1.24
かう (掛ける)	1.86	ばかばか (ちかちか)	1.61	てったう (手伝う)	1.21
つる (持ち運ぶ)	1.86	B 紙 (模造紙)	1.60	らっしもない (だらしがない)	1.19
どべ (最下位)	1.85	ももた (太もも)	1.56	ちーと (ちょっと)	1.16
つける (よそう)	1.85	はぜる (割れる)	1.56	きもい (窮屈だ)	1.06
ちんちん (熱い)	1.84	けった (自転車)	1.54	けなるい (うらやましい)	1.06
ほかる (捨てる)	1.79	あかる (こぼれる)	1.52	せいだいて (一生懸命)	1.01
たわけ (馬鹿)	1.77	くろにえる (内出血する)	1.69	ずつない (つらい)	0.97
ご無礼する (失礼する)	1.76	こうしゃく (不平不満)	1.47	へーともない (とんでもない)	0.90
なぶる (さわる)	1.76	さぶぼろ (鳥肌)	1.45	はじかい (痛痒い)	0.86
しゃびしゃび (水っぽい)	1.73	ぬくとい (温かい)	1.42	ときんときん (鋭い)	0.86
さらえる (残さず食べる)	1.70	まわし (用意)	1.41	あぬく (上を向く)	0.82
いきゃー (行きなさい)	1.70	やめる (痛む)	1.39	ふけらかす (自慢する)	0.70
がばり (がびょう)	1.69	おうじょうする (大変だ)	1.37	めこじき (ものもらい)	0.63
		ばばい (汚い)	1.30	かんす (蚊)	0.57

年代による語彙の使用差

以下では、年代による語彙の使用差を、今回は20代・30代・40代・50代・60代・70歳以上で比較する。

⑥ 70歳以上と20代の方言語彙使用率平均の差（マイナス）

まず、最も年齢差のある70歳以上と20代について比較を行った。以下に示すものが、70歳以上と20代の語彙使用率平均の差が大きいもの上位10語である。

数字は、20代から70歳以上の使用率を引いたものを示した。

らっしもない (だらしがない)	-1.78	きもい (窮屈だ)	-1.45
けなるい (うらやましい)	-1.61	へーともない (とんでもない)	-1.45
ずつない (苦しい、つらい)	-1.61	こうしゃく (不平不満)	-1.34
あぬく (上を向く)	-1.56	はじかい (歯がゆい)	-1.34
とらまえる (捕まえる)	-1.56	てったう (手伝う)	-1.33

ここに挙げた方言語彙は「70歳以上と20歳代の使用率の差が大きいもの＝現在、若い世代ではほとんど使用されていない語彙（この先消滅する可能性が高い語彙）」ということになる。これらの語彙について、分布地域などをまとめる。

以下、日本国語大辞典、ジャパンナレッジ（オンラインデータベース）、入手先く <http://www.japanknowledge.com> >を参考にまとめる。

「らっしもない」

乱雑である、だらしがない、という意味。

文献初出には『寛永刊本蒙求抄』1529頃「錢をらっしもなう人に鑄させぬぞ」という例がある。

〔分布地域〕岐阜県、愛知県葉栗群・東春日井郡、岡山县苦田群

なお、「らっしゃもない」「らっしょもない」「らっしょむない」は岐阜県益田郡・群上群・大野郡でも使用されている。

「けなるい」

「けなりい」に同じ。

文献初出には謡曲『輪藏』1541頃「そのこと、めでたい折からなればいづれもも賑やかなるがけなるうて、囃子を語らうて言ひ合はせて出候」という例がある。

〔分布地域〕大阪、栃木県芳賀郡、福井県速原郡、長野県南部、岐阜県、愛知県、三重県、滋賀県、京都府、兵庫県、奈良県南大和、和歌山県、岡山县苦田群、徳島県、香川県、愛媛県、松山、高知県、長崎県南高来郡、対馬、熊本県、大分県、宮崎県延岡市、鹿児島県

「ずつない」

苦しい、つらい、という意味。「ずつない」は岐阜県内で広く使われるが、その意味の差は大きい。飛騨では「せつない」、郡上では「うるさい」という意味でも使われる。

文献初出には、『栄花』1028・92頃 初花「すべてすつなういまはかうにこそとおぼしつる

に」という例がある。

[分布地域] 大阪、栃木県芳賀郡、福井県遠敷郡、長野県南部、岐阜県、愛知県、三重県、滋賀県、京都府、大阪市、兵庫県、和歌山県、岡山県苫田郡、徳島県、香川県、愛媛県、松山、高知県、博多郡、長崎県南高来郡、対馬、熊本県、大分県、宮崎県延岡市、鹿児島県「とらまえる」

つかまえる、という意味。「捕（とら）まえる」の語源は、「とらえる」と「つかまえる」の混同。「とらえる」「つかまえる」に相当するだけいたい方。

文献初出には『日葡辞書』1603・04「Toramaye, ru, eta（トラマユル）。むしろトラユルがまさる」という例がある。

「はじかい」

[分布地域] 岐阜県飛騨

ことばの意味と語源を調べて気づいたことは、「ずつない」「らっしもない」等のように昔のことばを使っているということだ。古語の場合、現在はインターネットが発達していることから、共通語と明らかに違うことばは使用されなくなる傾向があるのではないかと考える。反対に、現在も使用していることばもある。たとえば、「きもい（窮屈だ）」は、現在では「気持ち悪い」の略語として頻繁に使われており、窮屈だという意味で使用することは、年代が下がれば下がるほど、使用されなくなっている。

また、「はじかい」の分布地域を見てみると、岐阜県飛騨市のみである。現在は、テレビや新聞の普及、それから交通の便も良く、様々な場所へ行き、交流することができる。このことから、一つの地域にのみに使われていることばが残るのは難しいのではないかと考える。さらに「はじかい」は、語源からもわかるように、農業を通して生まれたことばであり、「床屋や稲刈りの後」に使われることばであるから、農業が減少傾向にある現代の日本では、やはり残るのが難しいことばなのではないか。分布地域を見ると「らっしもない」や「けなるい」「ずつない」は西日本に広く分布している。それぞれの地域の使用率はわからないが、西日本ではよく使われていたことばなのだろう。やはり、これらのことばもマスメディアの普及により使用率が減ったことばだと考える。

⑦ 20代・30代・40代・50代・60代で平均使用率が、1.2以上の語彙

次に挙げた語彙は、20代から60代までの世代で平均使用率が1.2以上であった語彙＝現在も使用されており、残っていく可能性の高い方言と判断し取り上げた。

(灰色の色がついた語彙は、全世代で1.5以上のもの)

方言語彙	20代	30代	40代	50代	60代
いきゃー	1.89	1.90	1.75	1.69	1.69
えらい	1.89	1.90	1.83	1.94	1.94
おたんちん	1.44	1.40	1.67	1.88	1.88
かう	1.78	1.90	1.83	1.94	1.94
がばり	1.67	1.80	1.83	1.81	1.81
けった	1.89	1.50	1.75	1.39	1.39
ご無礼する	2.00	1.20	1.83	1.84	1.84
さぶぼろ	1.67	1.30	1.67	1.49	1.49
さらえる	1.67	1.70	1.75	1.71	1.71
しゃびしゃび	1.89	1.60	1.92	1.68	1.68
だだくさ	1.89	1.90	1.92	2.00	2.00
たわけ	1.78	1.50	2.00	1.84	1.84
ちんちん	1.67	1.80	1.92	1.90	1.90
つける	1.89	1.80	2.00	1.94	1.94
つる	1.89	1.90	2.00	1.94	1.94
どべ	1.89	1.80	1.92	1.88	1.88
なぶる	1.56	1.60	1.83	1.94	1.94
なまかわ	1.22	1.20	1.83	1.78	1.78
ばかばか	1.33	1.80	1.75	1.81	1.81
はぜる	1.56	1.10	1.50	1.71	1.71
B紙	1.67	1.70	1.83	1.59	1.59
ほかる	1.67	1.67	1.83	1.88	1.88

これらの語彙を見てみると

- 方言であるがなんとなく意味が取れてしまうもの
- 共通語に存在するが語義の異なる語
- オノマトペ
- 古語、又は昔の共通語
- 外見から名づけられたと思われることば

などが挙がっていることが分かる。aに関して言うと、「いきゃー」。bは「えらい」「かう」「つける」「つる」。cは「ばかばか」「ちんちん」「しゃびしゃび」。dは「おたんちん」「ご無礼する」「たわけ」。eは「がばり」「B紙」などである。

ここに挙がった語彙のほとんどは「方言」として認識せずに使用している。また方言と認識していても愛着を持って使用している語彙が多いように感じる。実際アンケートでも「え

らい」「ちんちん」「つる」「B紙」などは県外の人と会話をしてはじめて方言であると知ったという意見が多かった。

⑧20代・30代・40代・50代・60代で語彙の使用率が1.2以下の語彙

方言語彙	20代	30代	40代	50代	60代
あぬく	0.11	0.40	1.00	0.90	1.10
かんす	0.11	0.30	0.67	0.55	0.68
トキントキン	0.78	0.70	0.92	1.00	0.78
はじかい	0.33	0.60	0.83	0.95	1.20
ふけらかす	0.22	0.60	0.83	0.70	0.98
めこじき	0.11	0.40	0.92	0.75	0.88

今度は逆に20代から60代の世代で使用率が1.2以下のものを挙げた。⑦の1.0以上の使用率がある語彙と比較すると、共通語に存在するが語義の異なる語は入っておらず、共通語に存在しない語彙が挙がっている。

意外な結果だったのが、「鉛筆を鋭くする」という意味で使う「トキントキン」。こちらは、隣の県である愛知県の代表的なことばの一つであり、岐阜でも使用されているだろうと考え、入れたことばであった。しかし、実際は数値が低いというだけでなく、この「トキントキン」に関しては様々な言い回しがあった。

トキントキン（8） ツンツン（5） チョンチョン（3） トキトキ（2）
 トギトギ（2） トントン（2） ピンピン（2） ツクツク（1）
 ツンツクツン（1） ちょんがらかす（1）

*（ ）の中は人数

また、蚊という意味の「かんす」についてであるが、岐阜県では「かんす」の他に、「へんび（蛇）」「とんがらし（とうがらし）」「よんべ（タベ）」など、「ん」を入れて話すことが以前はあった。『中部地方の方言』では、昭和15年ごろにはこれらの語は、よく使用されていた方言として紹介されているが、今まさに消滅しそうな語彙となっている。

⑨20代と50代以上の方言語彙平均使用率の差が大（マイナス）

※薄灰色＝1.0以下、灰色＝1.0以上

方言語彙	使用率の差	20代	50代	60代	70歳以上
こうしゃく	-1.52	0.33	1.85	1.90	1.67
らっしもない	-1.28	0.22	1.50	1.69	2.00
やめる	-1.03	0.67	1.70	1.68	1.67
とらまえる	-1.01	0.44	1.45	1.65	2.00

きもい	-0.98	0.22	1.20	1.26	1.67
けなるい	-0.98	0.22	1.20	1.51	1.83
まわし	-0.93	0.67	1.60	1.88	1.83
てったう	-0.78	0.67	1.45	1.53	2.00

ここに挙げた語彙は、20代（若年層）と50代の平均使用率の差が大きいものかつ50代から70歳以上では1.2以上の使用率だが、20代の使用率になると1以下の使用率になってしまった語彙である。特に「こうしゃく」「らっしもない」「やめる」「まわし」などは50代から70歳以上の使用率が1.5以上と非常に高いにも関わらず、20歳代の使用率はきわめて低い。ここに挙げた語彙は、10年～20年の間に使用されなくなってしまった語彙ということである。

3. 方言保持率

これまでの分析では、語彙ごとの使用率を分析してきた。ここでは、個人の方言保持率とそれぞれの方言の意識調査について分析したい。20代・50代・70代の県内出身者で比較する。

＜20代県内出身者＞

性別	女	女	女	男	男	女	女	女	女
出身地	中津川	各務原	各務原	大垣	岐阜市	各務原	各務原	中津川	岐阜市
保持率	1.33	1.27	1.17	1.13	1.10	1.10	1.08	1.06	1.02
両親の出身地	岐阜 北海道	岐阜	岐阜	岐阜 愛媛	岐阜 神奈川	無回答	岐阜	岐阜 新潟	岐阜
岐阜県が好きか	好き	好き	どちらでもない	好き	好き	好き	無回答	どちらでもない	好き
岐阜のことばが好きか	好き	好き	どちらでもない	好き	どちらでもない	どちらでもない	無回答	好き	どちらでもない

20代は1.33～1.02の数値となった。両親の出身地によって影響があるのではないかと考えた。しかし、方言保持率の一番高い回答者の両親の出身地は「岐阜・北海道」であるし、一番低い回答者の両親の出身地は「岐阜」であることから、両親の出身地によって方言の所持率の増減に関わってくるとは考えにくい。

意識調査では「岐阜県が好きか」「岐阜のことばが好きか」の質問に対して、「嫌い」という回答が一つもなかったことが意外であった。「岐阜のことばを使用して恥ずかしい思いをしたことがあるか」という質問で、5名の回答者が「恥ずかしい思いをしたことがある」という回答をしていたが、恥ずかしい思いをしたからといって、岐阜県や方言が嫌いになるわけではないようである。

＜50代県内出身者＞

性別	男	女	男	男	女	男	男
出身地	関	大野町	大野町	岐阜市	海津	中津川	大野町
保持率	1.81	1.77	1.75	1.67	1.58	1.56	1.50
両親の出身地	岐阜	岐阜	岐阜	岐阜 兵庫	岐阜	岐阜 長野	岐阜
岐阜県が好きか	嫌い	好き	好き	好き	どちらでもない	好き	どちらでもない
岐阜のことばが好きか	どちらでもない	どちらでもない	どちらでもない	好き	どちらでもない	好き	どちらでもない

男	女	男	女	女	男	男	男
多治見	大垣	宅八	岐阜県	大野町	大垣	岐阜市	大垣
1.50	1.50	1.42	1.40	1.40	1.27	1.23	1.10
岐阜	岐阜	岐阜	岐阜	岐阜	京都 名古屋	近県	長野
どちらでもない	好き	好き	好き	どちらでもない	好き	好き	どちらでもない
どちらでもない	好き	好き	どちらでもない	どちらでもない	好き	どちらでもない	嫌い

50代は1.81～1.10と幅広い数値である。やはり、ここでも20代と同じように両親の出身地と方言保持率は関係ないのではないかと考えた。しかし、ここで色づけされた箇所には私は注目した。今まで、見てきたものは片親が他県出身というパターンであったが、この回答者達は両親とも他県出身である。私自身もそうなのだが、埼玉出身の私は両親が喋る岐阜方言に影響されることが多々ある。やはり、片親が他県出身であると、その人自身も他県のことばを話す機会は少なからず減るだろう。しかし、両親ともが他県出身になると、他の地域に移動しても根強く出身地のことばを話す傾向にあるのではないだろうか。よって、他県出身の両親を持つ回答者は、(方言保持率1.2前後あるので)岐阜弁を知ってはいるけれども、両親の影響から使用しないという結果が導き出せるのではないだろうか。ちなみに、両親の出身地が千葉・宮崎である、岐阜出身の30代女性は方言保持率1.0と低い結果が出ている。

意識調査の方では、「嫌い」という回答が少ない結果となっている。また、岐阜方言をよく使うからといって、岐阜県が好きという回答にはならないようだ。「岐阜県が好き」と回答していても、「岐阜のことばが好きか」という質問になると「どちらでもない」と回答する人が多くなるのも注意すべき点である。

＜70歳以上県内出身者＞

性別	男	男	男	男	女	女
出身地	大野町	岐阜市	大野町	岐阜市	揖斐川	大野町
保持率	1.90	1.88	1.83	1.79	1.77	1.52
両親の出身地	岐阜	岐阜	不明	岐阜	岐阜	岐阜
岐阜県が好きか	好き	好き	好き	どちらでもない	好き	どちらでもない
岐阜のことばが好きか	どちらでもない	どちらでもない	好き	どちらでもない	嫌い	どちらでもない

70歳以上は方言保持率が1.90～1.52と高い数値となっている。

意識調査では、70年以上岐阜県に居住しており「好き」という回答が多いことを予想していたが、「岐阜県が好き」でも「岐阜のことばが好き」というわけではないようである。これはどの世代でも共通して言えることである。

3世代通して感じたことは、

- (a) 県内出身であれば、回答者の出身地は関係ないこと
- (b) 両親の出身地が他県だと保持率が低い。(片親が他県出身だと影響は少ない。)
- (c) 高い方言保持率の回答者は「岐阜県が好きか」「岐阜のことばが好きか」という回答に「好き」答えるわけではない。高い保持率の回答者でも「嫌い」と答える回答があった。高い保持率を持っているからといって、岐阜県のこと・岐阜のことばのことが「好き」だとは限らないし、反対に、岐阜県のこと・岐阜のことばのことが「好き」でも、高い方言保持率を有しているわけではない。

4. 考察

今回は、アンケート調査を中心に20代～70歳以上にかけて、方言語彙の使用率や、方言に対するイメージ調査を行った。アンケート分析した結果を踏まえ、研究目的として掲げた以下について考察を行う。

- A：方言語彙使用率の移り変わり（世代差）
- B：消滅する方言語彙と残る方言語彙の違い
- C：岐阜方言に対する意識調査
- D：岐阜方言（方言語彙を中心）の今後について

A：方言語彙使用率の移り変わり（世代差）

方言語彙の使用率をもとに、多様な角度から分析したが、全世代で使用率が高い語彙、全世代で使用率が低い語彙、あるいは、20代～30代の使用率は低い40代以上の使用率が高い語彙など、語彙によって年代による使用率は様々であった。

70歳以上と20代の方言語彙の平均使用率の差が大きいもの＝現在はほとんど使用されていない語彙として挙げられたものの特徴としては、「ずつない」や「らっしもない」のような古語からくる方言、または、「けなるい」のように古語が歳月を経て変形させた方言である。使われなくなった要因の一つとしては、ネットワークの普及が挙げられ、共通語とあまりにも違うことばは離れていく傾向があるのではないだろうかと考える。これらのことばは、近い将来消滅する可能性が高いことばと言えよう。

また、20代～60代にかけて、使用率が1.2以上と高い語彙として挙げられたものの特徴としては、a 方言であるが何となく意味が取れてしまうもの「いきゃー」 b 共通語に存在するが語義の異なる語「えらい」「かう」「つる」「つける」 c オノマトペ「ばかばか」「ちんちん」「しゃびしゃび」 d 古語、又は昔の共通語「おたんちん」「ご無礼する」 e 外見から名づけられたと思われることば「がばり」「B 紙」などが挙げられる。20代～60代で1.2以上の語彙は、ほとんどが県外の人と会話して初めて方言だと知ったという意見が多く、使用率が高い語彙は方言であるという認識がなく、使用している場合も多いということが分かった。

B：消滅する方言語彙と残る方言語彙の違い

アンケート A の分析結果から考えると

[消滅する方言語彙の特徴]

- ・ 共通語に存在しない語彙

[残る方言語彙の特徴]

- ・ 共通語に存在するか語義の異なる語
- ・ 共通語とそこまで形が変わらない語彙
- ・ インターネットなどであまり使用されず、方言と気が付きにくい語彙

などが考えられる。まずは消滅する方言語彙についてだが、「きもい」や「まわし」以外の語彙はどれも共通語に存在しない語彙ばかりで、共通語とかけ離れた語彙が多かった。(ものもらい＝めこじきなど) 共通語化が進んだ現代において、共通語とあまりに異なった語彙であると、使用するにも抵抗感があるものと思われる。残る方言についてだが、こちらは逆に共通語に存在するが語義の異なる語が多かった。また、方言だとわからない語彙も残る方言の一つの要因だろう。「ごはんをつける」「机をつる」「鍵をかう」などのことばは、このままの文章で使われることがほとんどで、テレビなどでも共通語として使用する状況をあまり見かけないことから、他県の人と話すまで方言だと気が付かないほど浸透しており、残る方言であると考えられる。

C：岐阜方言に対しての意識

岐阜方言に対しての意識だが、意外なことに年代ではさほど差がなかった。どちらも、岐阜県が好きとの割合に対し、岐阜のことばが好きという割合が少なく、地域好き＝方言が好きということではなく、岐阜県に愛着があるからと言って方言も好きというわけではないとい

うことが分かった。また、岐阜のことばのイメージは20代～30代が「ふるさと」であるのに対して、40代～70歳以上は「強い・きつい」という結果になった。「岐阜のことばを残したいですか？」の問いに対しては、20代～30代では、「どちらもよい」を含めると76%だったのに対し、40代～70歳以上は34%と低い値が出た。また、岐阜のことばを使用していて恥ずかしい思いをしたことがあると回答した人で、「岐阜のことばは好きですか？」の質問に「嫌い」と答えた人よりも「好き」と答えた人が多いことから、恥ずかしい思いをしたからといって、それが直接方言嫌いにつながるわけではないということも分かった。

D：岐阜方言の今後

A～Cで考察したものを参考に岐阜方言の今後について述べたいと思う。まず使用率の面から考えると、やはり、共通語の方が浸透している語彙に関しては消滅する確率が高いと考える。また、核家族化が進んだために高年層と接する機会が少なくなったために若い世代の方言使用率が低下しているとも考えられる。だが、「つける」や「えらい」「つる」など共通語と形がさほど変わらない、あるいは共通語に存在するが語義が異なる語などは使用するにも抵抗感がなく使用できることや、方言という認識があっても愛着を持って使用している人が多いことから、これからも残っていくのではないかと考える。

イメージの面から考えると、今回の調査で、方言語彙に関してはさほどマイナスイメージを持っていないということが分かった。だが、岐阜県が好きという割合が多いにもかかわらず、岐阜のことばが好きという割合は岐阜県が好きという割合に比べると低くなってしまっている。これは、岐阜方言は「強い口調で話す」「怒られているような話し方をする人が多い」と回答した人が複数いたことから想像できる結果になるだろう。しかし、そんな中でも、岐阜の方言に愛着を持って使用している人が多いのも、事実である。

5. おわりに

「方言」というものを、田舎っばいという一つの側面から見のではなく、多様な面からみて、そこに面白さを発見できたとき、方言が消滅せずに残っていく道が開けるのではないだろうか。ただ単純に「ことば」としてのツールではなく、様々なことに方言が使用されていったり、意識して残そうという動きが出てきたりすることで、方言は残っていくのではないかと思う。20代～30代のアンケート結果で、自分たちが使用してきた、使用していることばがなくなってしまうことに対しては抵抗があるということが分かっている。このことから、方言が完全になくなってしまおうということはないのではないかと考える。

地方での仕事の場合は標準語で相手と話すより、方言を使用した方が相手との距離が近くなるという話を聞いたことがある。今回のアンケートの中にも、「仕事上で使う」「あえて使う時がある」という回答者がいたことから、確かに距離が近くなるのだろう。コミュニケーションを図る上で、「ことば」というのは重要なものである。

相手との距離を近づけたり、遠ざけたりするのもことばである。「方言」というのはそれ

それぞれの地域で育ってきたことばであり、そのことばを話すことで仲間意識が生まれ、安心感を得ることができる。

若年層など若いうちは方言について、恥ずかしいという気持ちの方が大きいだろう。しかし、地元を離れた時に気づく大切なことばであり、帰りたくなることばではないかと思う。一人ひとり「ふるさと」がある。それを思い出したり忘れないようにするためにも方言というのは重要な役割を果たしてくれる。人と人を繋ぐ大切なことばとして、方言はこれからも使い続けていくものだと考える。

参考文献

奥村三雄（1976）『岐阜方言の研究』大衆書房

平山輝男（1997）『岐阜県のことば』明治書院

岩井隆盛（1998）『中部地方の方言』図書刊行会

日本国語大辞典、ジャパンナレッジ（オンラインデータベース）、入手先<<http://www.japanknowledge.com>>

